

キャンピングトレーラーを生かす

災害互助体制

石巻から始動

埼玉のNPO発案

東日本大震災の被災地で脚光を集めたのがキャンピングトレーラー。NPO法人「キャンパー」(本部・埼玉県行田市)が宮城県石巻市の被災者向けに三台を提供したところ「快適」「プライバシーが保てる」と好評を集めた。だが同法人では「次の災害では石巻市が使用済みの車両を派遣する」というような、恒常的な災害互助システムが必要」と話す。そのために越えるべきハードルとは――。

(熊谷通信局・柏崎智子)

キャンピングトレーラーをしながら2004と考えた。1は、内部にベッド、冷房、内部の新潟県中越地震の時は、暖房、キッチン、シャワールーム、トイレなどの設備が整った車両。エンジンはなく、ほかの自動車に引かれて動く。

キャンパー代表理事の飯田芳幸さん(55)が「トレーラーは災害にうってつけだ」と気付いたのは、初めて炊き出しボランティアの苦労を軽減できる」

後で、建設から撤去まで一棟約五百万円かかる」とされる仮設住宅に比べて高くない。実際、米国は災害用にトレーラーを所持し、〇五年に同国南部を襲ったハリケーン「カトリナ」で被災者の一時的な住まいとして大量に供給した。

飯田さんは「各自治体は何台か保有し、平常時はキャンプ場でバンガローとして貸したり、防災物資を入れる倉庫として使い、災害時には被災地へすぐ集める体制をつくらなければならない。白い車体を並べると、建設から撤去まで一棟約五百万円かかる」とされる仮設住宅に比べて高くない。実際、米国は災害用にトレーラーを所持し、〇五年に同国南部を襲ったハリケーン「カトリナ」で被災者の一時的な住まいとして大量に供給した。



2005年に米南部を襲ったハリケーン「カトリナ」では、政府が供給した大量のキャンピングトレーラーが被災者の一時的な住まいとして使われた。AP

利点を満載 将来の備えに

べるイメージで「ホワイ」と名付け、各地で呼び掛けてきた。今回の震災で初めて石巻市が応じた。同市では、市内九十カ所の校庭をつぶした例もある。自宅から近い場所だ。食事が支給され、光

熱水費もかからない集団生活に慣れた人の中には、仮設住宅で生活し始めることへのちゅうちょも見られるという。避難所敷地内でトレーラーに入って家族だけのスペースを確保し、元の生活の感覚を取り戻してもらうねらいもある。

五月から市内の小学校体育館の避難所で、キャンパーが提供したトレーラー三台を試験的に被災者に使ってもらったところ、好評だった。

プロジェクトを軌道に乗せるには、まずトレーラーをできるだけ多く集めることが先決。キャンパーはトレーラーの寄贈や購入のための義援金を受け付けている。

飯田さんは「日本ではいつでも震災が起きてもお不思議ではない。今の支援だけでなく、将来の自分たちの備えのためにも協力してほしい」と話す。問い合わせは、キャンパー 電048(55)3266。